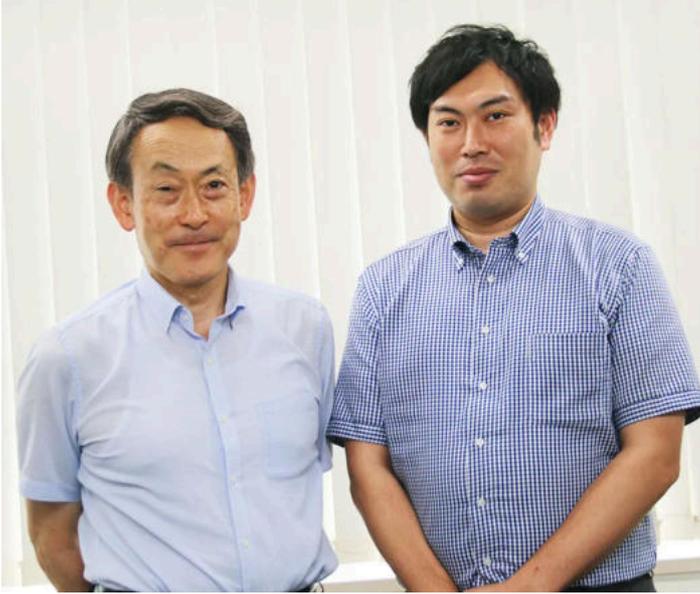


東邦樹脂工業、易開封・環境対応フィルムでサステナ社会実現貢献

ニュース 2025.07.30 12972号 05面



片山聡一郎取締役東京営業所長（左）と坪野貴志営業部営業第二課課長代理

易開封性ラミネートフィルム「ポロソ」や、高バイオマス・高生分解性バリア素材「生分解性バリアパウチ」など、東邦樹脂工業が開発・製造する包装材料への関心がサステナビリティ推進の機運とともに高まっている。

同社は1960年に創業したラミネート包装材料の専門メーカー。「押出ラミネート」「ドライラミネート」「水性コーティング」という三つの基幹技術を駆使し、高付加価値の包装用複合化フィルムを一貫生産している。押出ラミネートはベースとなるフィルムにプラスチック樹脂を熱で溶かしてフィルム状にして貼り合わせる工法で、ドライラミネートは基材となるフィルムに接着剤を塗布し、乾燥炉で溶剤を蒸発させてから別のフィルムと圧着して貼り合わせる工法。特に、押出ラミネート技術においては、取り扱いが難しいとされる紙ベース素材でラミネート加工を行う技術や一つの工程で2層から5層の多層複合化フィルムを生産するタンデム押出ラミネート加工技術を有する。「長年にわたり培ったこれらの技術を組み合わせ、食品・医薬品用包材、産業資材用包材など幅広く対応しており、食品用は全体の5割程度を占める」と、片山聡一郎取締役東京営業所長は話す。

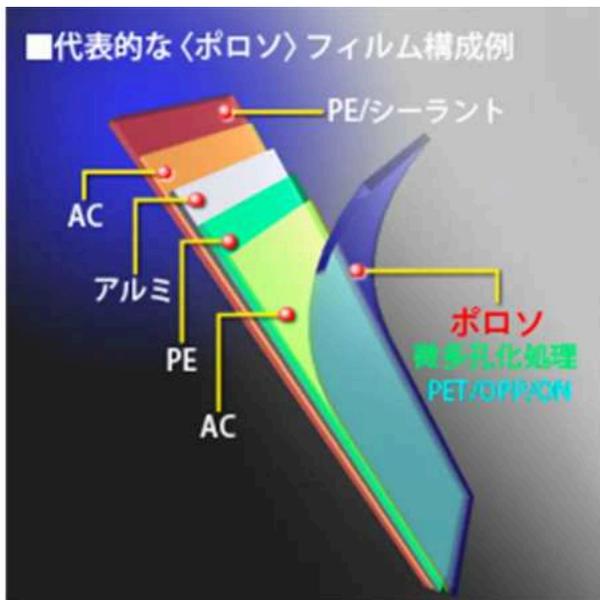


ポロソ加工を施したスティック用包材

高度なラミネート技術から生まれたのが、高機能ラミネートフィルム「ポロソ」。微多孔化処理により、「裂く」「破る」「刺す」「ガスを通す」の機能を持つのが特徴で、近年はユニバーサルデザインとして再評価されている。ど

の方向からでも容易に引き裂くことができ、食品や健康食品などの粉末・顆粒スティックに多く採用されている。容器の底から内容物を押し上げて包材を破いたり、蓋材のラミネートフィルムに内容物を取り出すために使用する器具（ストローなど）を突き刺すことも可能で、清涼飲料水などの容器の蓋材に採用されている。さらに、ガス透過性の機能を生かし、発酵食品などの食品用包材に使われている。

一方、環境問題への関心の高まりを受け、「生分解性バリアパウチ」への引き合いも増えている。紙製バリア素材「シールドプラス」（日本製紙製）と生分解性樹脂「BioPBS」（三菱ケミカル製）を使用した高バイオマス・高生分解性バリア素材で、土の中で微生物により分解される機能を持ち、土産用クッキーの個包装やドーナツ用包材などに採用されている。



代表的なポロソフィルム構成例

「紙の加工技術があるからこそ、他社に先駆けて開発できた」と、坪野貴志営業部営業第二課課長代理。今後も技術力と開発力を高め、サステナビリティ社会の実現に向け貢献していきたいとしている。（幸島ひとみ）



生分解性バリアパウチで包装されたクッキー